

# 上伊那エリア

伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村  
お問い合わせ先 上伊那地域振興局農地整備課 ☎0265-76-6816

## 1 西天竜幹線用水路・円筒分水工群

【所在地】辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市  
【築造】大正8年～昭和14年  
【管理者】上伊那郡西天竜土地改良区

幹線用水路の建設工事後、林地の開田が行われましたが、人力による造成工事のため水持ちが悪く、水争いが絶えませんでした。そこで円筒分水工を設置し、水田の面積に応じた仕切りや穴の数により公平に水が供給できるようになりました。現在でも利用されている円筒分水工は35基で、全国でも最大規模の円筒分水工群であり、平成18年度に土木学会選奨土木遺産に認定されています。



## 2 西天竜幹線用水路

【所在地】岡谷市～伊那市  
【築造】昭和3年  
【管理者】上伊那郡西天竜土地改良区、長野県企業局

**頭首工**  
【所在地】岡谷市川岸 【築造】昭和4年  
全長約25kmにおよぶ西天竜幹線用水路の取水口。毎秒5.56トンの水が約970haの農地を潤しています。頭首工の設置は、天竜川の流れを妨げるとして上流の住民との調整が難航し、昭和3年ようやく工事に着工、翌年に完成しました。その後、天竜川の河川改修に併せて昭和51年に改修され現在の姿となりました。



## 8 伝兵衛井筋（鞠ヶ鼻井筋）

【所在地】伊那市富県～東春近  
【築造】天保4年(1833年)  
【管理者】伊那市春富土地改良区

井筋は1658年に一旦開削しましたが、崩落など完成後の管理のため原新田村は多額の借金を背負うことになりました。杉島村(伊那市長谷)の伊東伝兵衛が原新田村と協議し、高遠藩の許可を得て私費で改修を行い完成しました。昭和12年に春富井隧道、昭和33年に高遠ダムが完成し新しい用水路が造られたため、伝兵衛の隧道は、現在では地中に眠ったままとされています。



## 9 中田切井

【所在地】駒ヶ根市赤穂  
【築造】明治7年(1874年)  
【管理者】中田切井水利組合

中田切川左岸の赤須・市場割・小町屋の3ヶ村(現駒ヶ根市)の福沢潤芝ら18人の有志が立ち上がり、中田切川から取水して南原地域の開田を計画しました。1855年に役所へ要請しましたが、水利権を持つ田切村はその申し出を断り、その後も平行線をたどる交渉が続きました。ようやく1872年に着工し、3年後の完成に至りました。「南原開墾の碑」には、有志18人の記録が残されています。



## 3 東天竜・伝兵衛井共用頭首工

【所在地】辰野町  
【築造】昭和2年(1927年)  
【管理者】辰野町東天竜水利管理組合、下辰野区

東天竜用水は1856年、伝兵衛井筋は1859年に築造されましたが、その後の水不足を解消するため、昭和2年に共同で取水する頭首工が設置されました。表面に自然石を配置したコンクリート製の固定堰で、堰堤は上流側方向に強くアーチしていることから、流れる水との曲線美が美しく、日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2,800選[土木学会])に認定されています。



## 八乙女の水路橋

【所在地】箕輪町八乙女 【築造】昭和2年(1927年)

西天竜幹線用水路が深沢川を越すために建設された水路橋です。昭和2年に完成しましたが、昭和17年に深沢サイフォンが完成したため、水路橋としての役目を終え、現在は道路として再利用されています。〔箕輪ときめき百選〕認定)

【所在地】飯島町七久保、中川村片桐  
【築造】明暦2年(1656年)  
【管理者】七久保片桐水利組合

井筋の下流に多くの分水があり、築造後も水争いが絶えませんでした。1824年、従来の分水柵による方法でも解決せず、時間による分水方法に変更しました。飯島町側は昼分の午前6時から午後4時の間とし、中川村側は夜分の午後4時から午前6時の間としました。現在では、七久保宮の上(大宮七窪神社西)において、北の井筋と南の井筋に6:4の割合で水を分ける方法で分水しています。



## 10 横沢井

【所在地】飯島町七久保、中川村片桐  
【築造】明暦2年(1656年)  
【管理者】七久保片桐水利組合

井筋の下流に多くの分水があり、築造後も水争いが絶えませんでした。1824年、従来の分水柵による方法でも解決せず、時間による分水方法に変更しました。飯島町側は昼分の午前6時から午後4時の間とし、中川村側は夜分の午後4時から午前6時の間としました。現在では、七久保宮の上(大宮七窪神社西)において、北の井筋と南の井筋に6:4の割合で水を分ける方法で分水しています。



## 11 理兵衛堤防

【所在地】中川村片桐  
【築造】寛永3年(1750年)～文化5年(1808年)

「暴れ天竜」の異名をとる天竜川は、古来より氾濫を繰り返し、その度に農地は大きな被害を受けてきました。江戸中期、水害に苦しむ地域を救おうと中川村の大地主松村理兵衛とその子、孫が私財を投げ打ち造った堤防です。58年もの歳月をかけて遂に完成した堤防は、天竜川の本流と前沢川の水を対岸に押し返す仕組みで、これにより一千石の農地を確保したといわれています。



## 4 木曾山用水

【所在地】塩尻市(旧橋川村)～伊那市上戸、中条  
【築造】明治6年(1873年)  
【管理者】松本市奈良井川土地改良区、上戸中条水利組合

伊那と木曾を結ぶ権兵衛峠は、日本海と太平洋の分水嶺となっています。約140年におよぶ話し合いの末、明治6年、奈良井川の源流である白川から権兵衛峠を回る水路が完成し、分水嶺を越えて木曾から伊那へ用水を導くことができました。木曾の水を伊那へと厳格に分配するために「水柵(みずます)」を造り、現在でも通水に併せ水量を計る水柵検査が行われています。〔まほらいないいとこ百選〕認定)



## 5 艶三郎の井

【所在地】伊那市荒井  
【築造】明治28年(1895年)  
【管理者】横井清水水利組合

明治中期、天竜川西の高台では水の権利をめぐる争いが絶えませんでした。用水の必要性を痛感した西伊那村荒井の御子柴艶三郎(みこしばつやさぶろう)は、私財を投げ打って上荒井の広大な台地に地下水脈を探し求め続け、明治28年ついに水脈を発見しました。「水脈が見つかったら、俺は水神になる」。一帯の約40haの水田を潤したのを見届けると艶三郎は自刃して果てました。〔まほらいないいとこ百選〕認定)



## 12 荒神山ため池(たつの海)

【所在地】辰野町樋口  
【築造】昭和44年(1969年)  
【管理者】辰野町

1969年、沢底川から600mポンプアップした水を温めて水田に配水する温水ため池として完成しました。ブランド米「上伊那米」を生産する33haを潤しています。春には、150匹の鯉のぼりが湖上を泳ぎ、800本の桜が咲き誇る中「荒神山さくら祭り」が開催されます。周辺一帯は、荒神山スポーツ公園として整備されており、白鳥やアヒルのいる親水公園は、町内外の人々に憩いの場として親しまれています。



## 13 千人塚城ヶ池

【所在地】飯島町七久保  
【築造】昭和11年(1936年)  
【管理者】七久保片桐水利組合

北山城の空堀を利用して造られた農業用ため池で、中央アルプスを屏風としたすばらしい景観に恵まれています。春は堤の千本桜、つつじ、あじさい等が咲きほこり、秋は紅葉と四季を通じて楽しむことができ、渡り鳥も飛来します。千人塚の歴史は古く、1582年、この地にあった北山城が織田信長の軍勢に攻め込まれ、その戦で亡くなった多くの兵士の亡骸を葬り塚としたといわれています。



## 6 六道の堤

【所在地】伊那市美篁  
【築造】嘉永元年(1848年)  
【管理者】長野県美篁土地改良区

1848年、高遠藩主、内藤頼寧(ないとうよりやす)は六道原の開墾を行いました。藤沢川から取水し、鉾持棧道(ほこじさんどう)脇をトンネルで抜け、芦沢に出て笠原を通り、六道原に至る約10kmの新しい水路を造りました。この池は桜の名所として地域の憩いの場となっており、また、堤には、漂泊の歌人といわれた井上井月の辞世句「どこやらに鶴(たず)の声聞く霞かな」の句碑があります。〔まほらいないいとこ百選〕認定)



## 7 月蔵井

【所在地】伊那市高遠町  
【築造】弘化4年(1847年)  
【管理者】荊口総代

高遠藩主の内藤頼寧(ないとうよりやす)は藩財政の建て直しのために、各所に井筋を開いて開田し、税の増収を図りました。用水は三義赤坂から取水し、幅二尺、長さ三里余、月蔵山を越え東高遠に達し、沿線の用水をかんがいするとともに、武家の御用水武家屋敷の生活用水ともなりました。開削の記念碑は薬師堂にあり、当時の関係者の名前が刻まれています。



## 14 与四郎垣外の横井戸

【所在地】箕輪町富田  
【築造】明治42年(1909年)  
【管理者】耕作者

「横井戸を掘るなら岳(駒ヶ岳)に向かって掘れ」という言い伝えがあり、当時の横井戸は全て西か、西南西方向に向かって掘られています。限りある湧水を最大限に利用するため、横井戸の湧水出口に掛時計を置き、時間を定めて順次にかんがいます。「時間水」というかんがい方法をとっています。文字盤の蓋に封印をして、水当番だけが開けられるようになっていたそうです。



## 15 宮田井(黒川井)

【所在地】宮田村  
【築造】承応3年(1654年)頃  
【管理者】宮田村

江戸時代、扇状地の上流で取水し、用水路を掘って水を下流へ送ることが考案され、太田切川の左岸に開削されました。現在では、黒川と発電所から放流される水の約半分を取り入れ、排水トンネル入り口で流量調節した後、余った水は太田切川へ戻っています。宮田井(黒川井)は、下流へ行く「こもれ陽の径」で有名な「黒川」へと名を変えます。

